

用語集

—あ—

RCサーボ（あーるしーさーぼ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。位置決めコントローラが内蔵されたアクチュエータ。受信機からの信号を受け動作する。

イエローフラグ（いえろーふらぐ）

反則行為に対する警告。ロボットに対して与えられる。イエローフラグを2回受けると、レッドフラグとなる。

異議（いぎ）

(1) 競技中の審判の判定に対する質問行為の回答に対して、異議申し立てすることができる。ただし、異議に基づいた裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映あるいは再試合を行うことはない。

(2) ロボット検査の検査員の判定に対して、異議を申し立てることはできない。

→ 裁定

一時帰還（いちじきかん）

レスキューロボットが自走してベースゲートを通過し、ロボットベースに戻ることを一時帰還と呼ぶ。

→ ロボットベースに戻る

ウエイティングサークル（うえいていんぐさーくる）

実験フィールド内でヘルパーが待機する場所。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、ヘルパーはウエイティングサークル内にいなければならない。

エキジビション（えきじびしょん）

競技会期間中に正規の競技ではないが、競技に準じた形で行われるレスキュー活動等。評価の対象にはならない。

エネルギーポイント（えねるぎーぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。レスキューダミーが受けたダメージを反映する。

オペレータ（おぺれーた）

チームメンバーの担当の一つ。レスキューロボットを操縦する担当または担当者を言う。

—か—

開催趣旨（かいさいしゅし）

フィロソフィーの概略を平易な言葉で簡単にまとめたもの。募集要項に書かれている。

隔壁（かくへき）

競技会場に設けられ、コントロールルームと実験フィールドとを隔てる壁。ベースゲートが設けられている。

可動ガレキエリア（かどうがれきえりあ）

救助ブロック内のうち、固定されていないガレキおよびレスキューダミーが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った1/4のエリアである。

壁（かべ）

ハイウェイ、被災区域の外側に設けられる。高さ 100mm。

ガレキ（がれき）

棒状ガレキ、板状ガレキがある。また、配置される場所によって路上ガレキ、ブロック内ガレキに分けられる。単体のガレキを意味する場合と、集合体としてのガレキを意味する場合がある。

機（き）

レスキューロボットを数える単位。1機とは書類審査の登録を基本とする。1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

→ 台

キャプテン（きゃぷてん）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。主な役割は、チームの指揮を執り、チームを統括すること。担当者を意味する場合もある。

救出（きゅうしゅつ）

レスキュー活動においてレスキューダミーをガレキの中から救い出すこと。

救出完了（きゅうしゅつかんりょう）

レスキューダミーが居た救助ブロックから道路上へ完全に出た時点を救出完了とする。
レスキューダミーが空中にいる場合は床面への投射影で考える。

救助（きゅうじょ）

→レスキュー

救助ブロック（きゅうじょぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、可動ガレキエリアが設けられているブロック。ブロック内は「私有地」と想定されている。可動ガレキエリア内にレスキューダミーが置かれるのでこのように呼ばれる。

競技会（きょうぎかい）

レスキューロボットコンテストの中心的な催し。実験フィールドが設置された競技会場でレスキューロボットコンテストの競技を行う。

競技会場（きょうぎかいじょう）

競技会を行う会場。競技会場は主に実験フィールド、隔壁、コントロールルームで構成される。

緊急停止スイッチ（きんきゅうていしすいっち）

レスキューロボットのエネルギー源を遮断するスイッチ。ロボット上部等、わかりやすくかつ操作しやすい位置に取り付けなければならない。特段の理由がない限り緊急停止スイッチは実行委員会が指定したものとする。

クリスタル（くりすたる）

ラジオコントロール機器が使用するバンドを決める発振子。クリスタルを交換することにより、ラジオコントロール機器が使用するバンドを変更する。クリスタルにはバンドの番号が表記されている。プロポ用と受信機用の一組を対で使用する。

現場（げんじょう）

レスキュー活動において救助を必要とするレスキューダミーが埋まっている場所。

現場到着（げんじょうとうちゃく）

レスキュー活動において、レスキューロボットが現場へ至ること。チームのいずれかのロボットが、レスキューダミーの居る救助ブロックの可動ガレキエリアにあるガレキまた

はレスキューダミーに触れた時点とする。

工具等（こうぐとう）

レスキューロボットの調整、部品交換等を行うための道具。一般的な工具であっても、レスキューロボットに取り付けて出動する場合は付属品となる。

固定ガレキエリア（こていがれきえりあ）

救助ブロック内のうち、固定されているガレキが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った3/4のエリアである。

コンテスト（こんてすと）

募集開始から、書類選考、試走会、競技会等、レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催するすべての催しの総称として用いる。

→ **競技会**

コントロールルーム（こんとろーるるーむ）

競技会場に設けられ、チームメンバーがレスキューロボットの操縦などを行う部屋。隔壁で実験フィールドと区分けされており、震災被害を受けていない地域にあると想定されている。ヘリテレステージ、ロボットベース、各種カメラのモニターテレビ等が設置されている。ヘルパー以外のチームメンバーは競技中コントロールルームから出てはいけない。

—さ—

再検査（さいけんさ）

一度不合格になったレスキューロボットのロボット検査を再度受けること。レスキューロボット1機につき、一度だけ認められる。一度目の検査において検査員と協議の上、再検査で合格の見込みがあるものについてのみ再検査を申請することができる。

作戦会議（さくせんかいぎ）

競技会でレスキュー活動を行う前に設けられる手順の一つ。ヘリテレのカメラ映像、観察をもとに、ガレキ内に取り残された被災者を模擬した人形であるレスキューダミー救助作戦を立てる。

作戦紹介（さくせんしょうかい）

競技会でレスキュー活動を行う前に設けられる手順の一つ。立案した作戦をスピーカーが紹介する。

裁定（さいてい）

異議申し立てに対して実行委員長が下す。裁定は最終判断であり、裁定に対して異議を申し立てることはできない。ただし、裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映あるいは再試合を行うことはない。

試走会（しそうかい）

競技会に先行し、競技会とほぼ同一な競技会場でレスキューロボットを試運転する会。原則として試走会参加が競技会出場の条件である。

実験フィールド（じっけんふいーど）

競技を行うために競技会場に設置され、レスキューロボットがレスキューダミーを救助する活動を行う場所。実験フィールドの中にはハイウェイ、被災区域が設置される。

実行委員長（じっこういいんちょう）

レスキューロボットコンテスト開催に関する最高責任者。レスキューロボットコンテスト実行委員会の長。審判の判定に対して異議を受けつけた場合裁定をする。またロボット検査の保留事項については全検査員および実行委員長が協議を行う。

質問行為（しつもんこうい）

- (1) 審判の判定に対して競技会終了後、チームのキャプテンは主審に対して質問することができる。
- (2) 審査員の自チームの評価についてその評価結果の理由に限り質問することができる。ただし、競技会終了後キャプテンが主審に申し込む。

主審（しゅしん）

競技中の全権を持ち、副審を指揮・統括する。

出動（しゅつどう）

レスキューロボットがロボットベースからベースゲートを通り、救出現場へ向かうこと。

受信機（じゅしんき）

- (1) ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。プロポからの操縦指令を受信し、RCサーボへ信号を出力する。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。

- (2) 無線カメラからの信号を受信し、モニターテレビへ出力する。チャンネルを変更するためには、受信機本体を変更する。

条件付き合格（じょうけんつきごうかく）

ロボット検査において、規定に不適合である機能を競技中使用しないことを条件とした合格。

審査員（しんさいん）

学識経験者、防災関係者等で構成される。審査員はレスキューロボットコンテストの開催趣旨およびフィロソフィーに則り評価を行う。

審査員ポイント（しんさいんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。主にレスキューロボットコンテストの主旨に合致している度合いを反映する。

審判（しんぱん）

競技が規定に則り行われているかを判定する。主審および副審を設ける。

審判団（しんぱんだん）

主審および副審で構成される。

スピーカー（すぴーかー）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。レスキューロボットおよび戦術のプレゼンテーション、作戦紹介、およびレスキュー活動報告を行う。

センサ内蔵ダミー（せんさないぞうだみー）

→ レスキューダミー

戦術（せんじゅつ）

想定した災害現状から救助を行うためにあらかじめ検討されている方法。

センターライン（せんたーらいん）

道路上に描かれる幅 20mm のライン。

—た—

台（だい）

1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

→ 機（き）

タイムポイント（たいむぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。レスキュー活動の迅速さを反映する。

チームカラー（ちーむからー）

各チームを識別する際に使用される色。書類審査終了後登録が必要になる。

チームメンバー（ちーむめんばー）

チームの構成員。単にメンバーと略する場合もある。

チャンネル（ちゃんねる）

- (1) ラジオコントロール機器の操縦自由度のことをいう。例えば、「1チャンネルでレスキューロボットのアームの角度を制御する。」「このラジオコントロール機器は6チャンネルの制御を行える。」など。
- (2) 無線カメラについては使用する周波数に対応する番号のことをいう。例えば、「10チャンネルと13チャンネルの無線カメラは同時に使用できる。」など。

道路（どうろ）

被災区域内の各種ブロックを囲むように設けられている通路。不整地ブロックを除くブロック内は「私有地」と想定されているが、道路上は「公有地」として想定している。

—な—

特になし。

—は—

ハイウェイ（はいうえい）

実験フィールドおよびコントロールルームの中に設置される。コントロールルームに設置されているロボットベースと実験フィールド内の被災区域を結ぶ通路である。被災している区域と被災していない地域を結ぶ道路を想定している。

搬送（はんそう）

レスキュー活動において、救出されたレスキューダミーをロボットベースへ運ぶこと。

搬送完了（はんそうかんりょう）

レスキュー活動において、搬送されて来たレスキューダミーがベースゲートを完全に通過した時点をもって搬送完了とする。

バンド (ばんど)

ラジオコントロール機器が使用する周波数に対応する番号。周波数と番号の対応については、下記を参照のこと。

| | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 40.77MHz | 77 バンド、 | 40.79MHz | 79 バンド、 |
| 40.81MHz | 81 バンド、 | 40.83MHz | 83 バンド、 |
| 40.85MHz | 85 バンド、 | | |
| 72.13MHz | 17 バンド、 | 72.15MHz | 18 バンド、 |
| 72.17MHz | 19 バンド、 | 72.19MHz | 20 バンド、 |
| 72.21MHz | 21 バンド、 | 72.79MHz | 50 バンド、 |
| 72.81MHz | 51 バンド、 | 72.83MHz | 52 バンド、 |
| 72.85MHz | 53 バンド、 | 72.13MHz | 54 バンド |

被災区域 (ひさいくいき)

実験フィールド内のハイウェイを除いた区域。被災区域の中には道路、各種ブロックが設置される。また、ガレキが配置される。

フィロソフィー (ふいろそふいー)

レスキューロボットコンテストの最も基本となる考え方、主旨。コンテストのすべてはフィロソフィーに則り計画、開催される。

副審 (ふくしん)

主審の指揮・統括下で、主審を補佐しながら競技の進行に務める。コントロールルーム担当とレスキューダミー担当副審を設ける。

不整地ブロック (ふせいちぶろっく)

被災区域内に設置されるブロックの一つ。「公有地」と想定されている。

ブラックフラグ (ぶらっくふらぐ)

反則行為に対する試合の没収。ブラックフラグが宣告されたチームは競技を継続することはできない。また、評価を受けることができない。

プレゼンテーション (ぷれぜんてーしょん)

競技会で行われる競技の一つ。スピーカーがチームのレスキューロボットの特徴、戦術を紹介する。

ブロック（ぶろっく）

被災区域内に設置されている、正方形（1,200mm×1,200mm）の区域。ブロックは被災区域内に9カ所ある。

→ 救助ブロック、模型ブロック、不整地ブロック

ブロック内ガレキ（ぶろっくないがれき）

救助ブロック内に配置されるガレキをブロック内ガレキと呼ぶ。

プロポ（ぷろぽ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。操縦装置と送信機が一体となったもの。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。

ベースゲート（べーすげーと）

ベースゲートは隔壁に設けられ、コントロールルームと実験フィールドを結んでいる。ハイウェイ上面からの高さ 450mm、幅 1,200mm。すべてのレスキューロボットはベースゲートを通り出動する。

ヘリテレ（へりてれ）

チームメンバーの担当の一つ。レスキュー活動においてヘリコプターで上空から災害現場を撮影するテレビカメラを模擬し、高所より実験フィールドの撮影、観察を行う。担当者を意味する場合もある。

ヘリテレステージ（へりてれすてーじ）

ヘリテレが高所から実験フィールドの情報収集を行うために使用する台（高さ 600mm）。ヘリテレ以外がステージに登ってはならない。ヘリテレはヘリテレステージ上においてのみヘリテレ用カメラを操作することができる。

ヘルパー（へるぱー）

チームメンバーの担当の一つ。実験フィールドに待機し、リスタートの際にレスキューロボットを取り扱う。競技中他の担当者とのコミュニケーションをとってはならない。担当者を意味する場合もある。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、ヘルパーは実験フィールドに設けられたウエイティングサークル内にいなければならない。

—ま—

ミッションポイント（みっしょんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。レスキュー活動の達成度合いを反映する。

無線カメラ（むせんかめら）

レスキューロボットに搭載し、ロボットの操縦に必要となる映像を撮影するためのカメラ。映像は無線で電送される。

模型ブロック（もけいぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、ブロック内のすべてのガレキが固定されているのでこのように呼ばれる。ブロック内は「私有地」と想定されている。

モニターテレビ（もにたーてれび）

コントロールルーム内に設置された、映像をモニターする装置。無線カメラのモニター、評価ポイントのモニター、ヘリテレ用カメラのモニター。モニターと省略する事がある。

—や—

床面（ゆかめん）

競技会場を鉛直上方からみたときに見える面。たとえば実験フィールドでは、道路や各種ブロックおよびガレキの上面となる。いわゆる建築物の床ではない。

—ら—

ラジオコントロール機器（らじおこんとろーるきき）

レスキューロボットを無線で操縦するための装置。プロポ、受信機、RCサーボ等で構成される。プロポおよび受信機に取り付ける一組のクリスタルを取り替えることにより、バンドの変更を行う。

リスタート（りすたーと）

レスキューロボットが一時帰還できない場合などにおいて、主審の許可を受け、ロボットをロボットベースへ持ち帰り、修理などを実施した後、再度出動することができる。この一連の作業をリスタートと呼ぶ。

略称（りやくしょう）

短く、言いやすい言葉で表現したチームの名称。通常、チームを呼ぶ際に使用される。

レスキュー（れすきゅー）

レスキューダミーを救うために行う一連の活動、出動、現場到着、救出、搬送を総称して言う。

レスキュー活動（れすきゅーかつどう）

競技会で行われる中心的な競技。立案した作戦に基づき、レスキューダミー救助作戦を遂行すること。

レスキュー活動の完了（れすきゅーかつどうのかんりょう）

すべてのレスキューダミーを搬送完了した時点をも、レスキュー活動の完了とする。

レスキュー活動報告（れすきゅーかつどうほうこく）

競技会でレスキュー活動を行った後に設けられる手順の一つ。スピーカーが、ロボットの行った活動を総括すること。

レスキューダミー（れすきゅーだみー）

震災でガレキに埋もれた被災者を模した人形。各種センサを内蔵しているため「センサ内蔵ダミー」と呼ぶことがある。「ダミー人形」とは呼ばない。

レスキューロボット（れすきゅーろぼっと）

レスキューロボットコンテストに応募、出場するロボット。

レスキューロボットの付属品（れすきゅーろぼっとの付属品）

一回のレスキュー活動において、レスキューロボットに取り付ける部品等一式。レスキュー活動開始時において、ロボットベースに配置されていなければならない。レスキュー活動開始時にロボットベースに配置されていない部品は、付属品として認められない。

レッドフラグ（れっどふらぐ）

反則行為に対する退場。レスキューロボットに対して与えられる。チームのすべてのロボットがレッドフラグの宣告を受けると、チームにブラックフラグが宣告される。

路上ガレキ（ろじょうがれき）

道路上に配置されるガレキを路上ガレキという。単一のガレキを意味する場合と集合体のガレキを意味する場合がある。

→ ブロック内ガレキ

ロボット検査（ろぼっとけんさ）

競技会へ出場するレスキューロボットが、規定などに適合しているか否かを判断するために行う検査。競技に参加するすべてのロボットはロボット検査を受けなければならない。

ロボット番号（ろぼっとばんごう）

レスキューロボットを識別するために用いられる番号。競技に参加するすべてのロボットに1から順に割り当てなければならない。

ロボットベース（ろぼっとべーす）

レスキューロボットが出動する際に配置される区画（1,200mm×1,200mm）。空間的に指す場合は、区画の表面から鉛直上方空間を言う。一時帰還およびリスタート時も同様にロボットベースから出動することとなる。ロボットベースに戻ったロボットに限り、チームメンバーが触れることができる。

ロボットベースに戻る（ろぼっとべーすにもどる）

ロボットの接地面がロボットベース上にあること、かつ、ロボットが完全にベースゲートを通過していることをもってロボットベースに戻ったと言う。

—わ—

特になし。

以 上